

梅雨時の大雨に伴う農作物等の管理対策

平成29年6月30日
新潟県農林水産部

6月30日10時35分新潟地方気象台から北陸地方週間天気予報が発表されました。向こう一週間は、前線や湿った空気の影響で曇りや雨となる見込みで、3日から4日頃にかけては、前線の動向によっては大雨となるおそれがあります。以下の管理対策を参考に農作物等の管理に十分注意してください。

1 水稲

【事前対策】

用排水路を点検し、ほ場の浸・冠水を防止する。

【事後対策】

- (1) 大雨時は、河川への影響を考慮し、水尻は完全に落とさず、一定水位を保った上での排水に努める。
- (2) 冠水した場合は、できるだけ早く排水を図り、葉先だけでも水面上に出せるよう努める。
- (3) 浸・冠水した場合は、稲体の弱体化による病害虫の発生が予想されるので、病害虫の早期発見・防除に努める。
- (4) 浸・冠水した場合は、葉色が上昇する場合がありますので、生育の変化に留意し、穂肥の施用量を調節する。

2 大豆

【事前対策】

中耕・培土の溝一明きょ一排水口一排水路の連結を点検・整備し、排水路の確保に努める。

【事後対策】

- (1) 浸・冠水した場合は、できるだけ早く排水するように努める。
- (2) 湿害による黄化や生育不良などの症状が見られたら、窒素追肥を10a当たり成分で1～3kgを施用するとともに中耕・培土を行う。

3 野菜

【事前対策】

露地ほ場や施設周辺の排水路等の点検と、明きょ等による排水路の確保に努める。特に、開花期のえだまめ等では排水を徹底する。

【事後対策】

- (1) 浸・冠水したほ場は、明きょやポンプ等を活用した速やかな排水に努める。

- (2) マルチ栽培では一時的にマルチをめくるなどして土壌の速やかな乾燥を図る。
- (3) 茎葉が泥により汚れた場合は、できるだけ清水で洗い流す。
- (4) 病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して防除を実施する。特に、これまで強風等の被害を受けたほ場では防除を徹底する。
- (5) 草勢回復のため、葉面散布や液肥等による追肥を行う。
- (6) 交配中のすいかが着果していない場合は交配を徹底する。
- (7) 露地の果菜類は、降雨が続いた後の強い日射により果実の日焼けや草勢の低下が懸念されるため、すいかではワラ等で果実を被覆して日焼け防止に努める。
- (8) なす等で、しおれ症状が見られる場合は、若もぎによる草勢回復等を図る。

4 果樹

【事前対策】

明きよ・暗きよの排水路への接続を確認し、排水路の確保に努める。また、排水ポンプ等を使用する場合は事前に保守点検を実施し、遅滞なく排水できるよう準備する。

【事後対策】

- (1) 風を伴った降雨の場合は葉の傷みを確認し、必要に応じて追加防除を実施する。
- (2) 停滞水が見られる場合は明きよ排水への接続などにより排水を図る。
- (3) 収穫を目前に控えたももなどは熟期が早まることもあるので、収穫遅れとならないよう品質の確認を徹底する。

5 花き

【事前対策】

露地ほ場や施設周辺の排水路等の点検と、明きよ等による排水路の確保に努める。

【事後対策】

- (1) ほ場の停滞水は、根傷みの原因となるので、速やかに排水する。
- (2) 倒伏した株は早急に起こし、茎や花穂の曲がり防止する。
- (3) 浸・冠水により茎葉が汚れた場合は、可能な限り速やかな散水により汚れを落とす。
- (4) 病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して適切に防除を実施する。
- (5) 切り花類や鉢物類では、降雨が続いた後の急激な日射により葉焼け（チップバーン）等の生理障害を生じやすいので、日射量に応じたこまめな遮光資材のかけ外しや換気等により適切な温度・湿度管理に努める。

6 畜産

(1) 飼料作物・牧草

【事前対策】

ア 牧草、飼料作物は、浸水による倒伏、根腐れを防止するため、明きよ、溝切りによる排水対策を行う。

イ 調製済の牧草ラップサイレージ等をほ場で保管する場合は、浸水による品質低下を防ぐため、水はけの良い場所に移動する。

【事後対策】

- ア 牧草、飼料作物のほ場に浸水等があった場合は、早急な排水対策に努める。
- イ 河川敷のほ場が浸水した場合は、品質確保のため牧草を刈り取り除去し、再生をうながす。
- ウ 流木、土砂等が流入した場合は、これらを除去するとともに、牧草の密度が著しく低下した場合は草地更新を準備する。

(2) 家畜管理等

【事前対策】

畜舎への雨水の浸入を防ぎ、配合飼料、牧乾草は濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。

【事後対策】

- ア 畜舎への浸水があった場合は排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に搾乳機器は、故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。
- イ 家畜の観察を励行し、異常のある場合は速やかに獣医師の診療を受ける。
- ウ 死亡家畜は、速やかに化製場に搬入する等の確な処理を行う。

7 きのこと

【事前対策】

施設（ハウス、雨よけ等）の保護や資材類を安全な場所に移動するなど、適切な管理に努める。

【事後対策】

- (1) 周辺的安全を確認の上、被害状況の把握に努める。
- (2) 被害状況に応じて、原木・菌床用培地等の資材の確認や、生産施設・栽培地等の復旧に適切に対応する。

8 漁業全般

【事前対策】

早めの情報入手に心がけ、大雨が予想される際には漁具や飼育池等の管理に十分留意し、厳重に警戒するよう組合員へ周知する。

【事後対策】

係留している漁船、漁具や飼育池等を確認する際は、十分な安全を確保してから実施する。